

「教室の外」 - 2007年

学校教育（教育学）・山本久雄

1 授業の概要

本授業は「教育に関する社会的、制度的又は経営的事項」を扱う教職科目であり、その目的は「教職を志望する者の必須の教養をつけるため、教育の社会的、制度的又は経営的事項についての基礎理論を理解し、改革の動向を把握する。」である（シラバス）。例年通り、教室内で教員と生徒との相互作用（指導と学習）が行われるために「教室の外」でどのような配慮・取組が行われているかという視点で内容を構成した。受講学生は学校教育教員養成課程の1回生43名、3回生1名であった。

今年は配布資料の充実と内容の精選に努めたことにより、少人数であったこともあって、例年になく落ち着いた雰囲気での授業を進めることができた。授業最後の総括もていねいな記述が多かった。

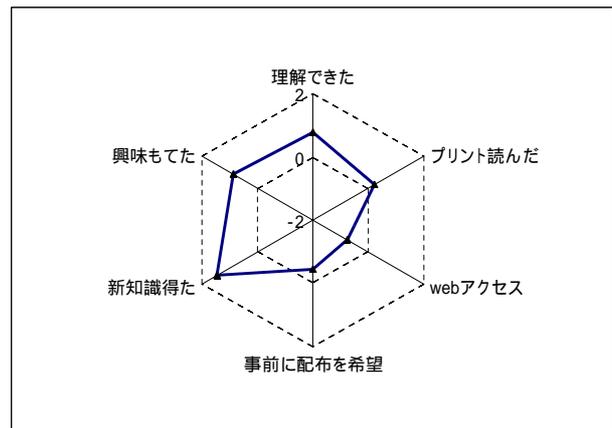
2 授業の検証

毎回の授業の終わりに小紙片を配布し、その日の授業を総括させた。そこには理解不足が見られることもあったが、それへの個別的対応は十分とは言えなかった。分からないことがあったら直ぐその場で質問することを促していたものの、この授業が昼休み前であったこともあり、個別的対応に何らかの工夫の余地があると思われる。

授業最終回にはアンケートを実施した。質問は例年とほぼ同じであり、解答の傾向もおおよそ同じであった。質問は内容の理解と興味、新しい知識の取得といった、授業の成果にかかわるものと、授業外での配布資料の閲読、参考WEBページへのアクセスの状況、授業資料の事前配布の希望の有無等、授業外学習の状況及び意欲に関わるものである。その回答結果を図示すると以下ようになる。

即ち、内容の理解と興味、新しい知識の取得といった、授業の成果については概して肯定的な回答が得られたが、授業外学習

の状況及び意欲に関わる質問には概して否定的な回答が優勢であった。こうした傾向は例年見られるものである。とりわけ、改



革のテンポが急で、その情報の殆どがWEBページに載せられているなかで、それへのアクセスがあまり行われていないという状況は本授業の目的に照らすと憂慮すべきことである。

3 課題と工夫

単位の実質化のための取組が求められるなか、この授業は授業外学習の促進という点で課題を残していることが、このアンケートから判明した。授業者は数年前からこうした傾向には気付いていたのであるが、その対応にはやや躊躇を覚えていた。それは、学習とは本来自発的に行われるべきものであり、教員の基本的役割は「水飲み場」に連れて行くこと、自発的に飲む水こそ美味で身体にいい、とする観念に囚われていたからである。

しかし、時勢はこうした観念からの脱却を求めている。宿題を課すなど、強制的に授業外学習を促す取組を、今後工夫せねばならない。児童生徒の「教室の外」を見渡す視野を培うとともに、受講学生の「教室の外」での学習を促進すること、これがこの授業の課題である。